

創業の聖地を踏み祖先と同じ姿となり切つて奉仕をしつゝ、
其の役々の中に此の大道に徹せんとするものでありますから、
全心全靈を神より授かる用具に托して勤勞せられると同時に
各自の心田を充分に開拓せられますやうに、尙この
二千六百年記念檀原神宮境擴張の事業たる皇國彌榮と共

に永遠不滅なる歴史的大事業であります。それと共に皆さ
んの今日の一歎も亦永遠に滅びざる皇運扶翼の大事業であ
ります、どこか至純至誠此の聖業に其の心魂を捧げられん
ことを希望致します。(京橋教育主事の案)

水害と道路愛護團體の活動

静岡縣廳道路課

一、被害の概況

今次静岡縣下を襲つた水禍は不連續線の影響で廣く關東
地方を中心に脅し、最後に轉じて關西地方を威嚇し邦土の
大半に互り慘禍の跡を貽すに到つたが、本縣下で水害の最
も激甚を極めたのは伊豆半島方面で特に西海岸に面する、
戸田村を中心に土肥町、西豆村附近の被害は深刻なるもの

で、西海岸地方唯一の幹線である松崎土肥線、土肥大仁線
を筆頭に各線共道路の缺壞、橋梁の流失等全く跡形も無く
流没せる箇所あり、各河川筋の堤防、護岸は滅茶苦茶に破
壞され其の形態すら判明せざる状態に陥らしめ、土肥町の
如きは町制施行し躍進の途に就いたのも束の間可惜水魔に
禍され陸路は斷たれ、水道は破壊し、家屋の全潰半潰、耕

地の流失埋没等其の慘禍名狀すべからざるものあり、尙天城山脈を抱擁せる狩野川流域の出水は亦著敷猛威を極め沿岸の築堤護岸は狂奔せる激流の爲溢流し破壊され橋梁は悉く片端から嘗めに嘗め盡し、河口沼津市の如きは市街地の大半を洪水の巷と化するに至り、同市は曩の祝融今亦水禍全く火攻、水攻の災厄に市民を戰慄せしめ完全に水魔の虜となし莫大の被害を與へ、飽なき水禍は更に擴大して西部遠州方面を襲ひ、天龍、大井の二大流域に涉りて荒れ廻り、中小河川悉く増水し、殊に西遠大天龍は遠く信州の魔木を押し流し水位二丈有餘に達し猛烈なる水勢を以て堤防に撃突し、遂に沿岸中瀬村地先の改修新堤に大缺潰を來し下流村落の危機に瀕したる状態に隣接町村、龍池、赤佐、笠井、二俣其他附近町村の各種團體の救援隊壹千有餘人出動し必死の防禦に當りたるも刻々募る水勢に豊橋工兵隊及濱松高射砲聯隊出動し地元團體と協力積極的防水計劃の下に連日連夜挺身的活動を続け大破に到らしめず完全に征服し秋眉を開きたるも一時は戦々兢兢たる修羅場とも謂ふべく、

更に中遠見付、中泉地方は今浦川の氾濫に泥水の巷と變し交通は遮斷される等、斯の縣下全面的に及ぶ空前の水害は言辭に盡し難きもので、現に六月下旬より七月上旬に及ぶ小降雨量は東部沼津地方九百五十五耗、西部濱松地方五百耗にして縣下一ヶ年の平均降雨量千九百五十耗に比し此の數を以てしても如何に豪雨なりしかは推して知るべく、而して果なくも相繼で八月上旬大雨豪注し、各河川氾濫し、遂に水禍の跡も生々しき復興途上にある各沿岸町村を脅し、殊に西部中遠を中心に全縣下に及びたるものにして、其の降雨量は中部静岡三百二十耗、西部袋井七百十耗、東部三島百七十三耗を示し、水位は大井川の一丈九尺、天龍川一丈三尺、狩野川七尺の増水に達し其の他中小河川筋の堤防決潰、道路の流失缺潰、橋梁の流失、省線社線の鐵路の崩壊流没、稻田の冠水流没、家屋浸水倒壊埋没、山腹の崩壊擣加奪き犠牲者を出す等慘狀を繰返し、未だ嘗てなき水禍に縣民をして啞然たらしめたのである。

斯の再度の水禍に先きに大被害を蒙つた天龍川筋中瀬村

地先堤防は復舊半にして亦も危機に瀕し人夫四百有餘名、消防組二百名出動警戒に努め、又一方災禍の中心地であつた伊豆西海岸、戸田の大川、土肥の山川増水し堤防の應急も未だ到らざるに地元民は暗然として徹宵警備に戰慄の一夜を明す等前後二回に互る被害は極めて莫大なるものにして其の被害總額は祐に三千六百萬圓の巨額に達すべく、縣豫算の三ヶ年分を僅か一句の裡に吹き飛ばされ、常時ならぬ戰時體制下に實に忍び難き實狀である。

二、災害對策

縣は斯の非常時局に鑑み急遽災害對策の萬全を期する方針を以て夫々強靱なる施設を講し官民一致緊張の雰囲気を経て復興に邁進してゐる状態である。尙土木に屬する災害應急復興に付ては鋭意調査中なるも、縣工事、市町村工事を總括すれば其の被害線額は前回に於て四百五十萬圓、次回に五、六十萬圓程度にして約五百萬圓に達すべく、之れが對策に付ては未だ交通杜絶の状態にある地方もあるの

で、時局重大の折柄陸上交通の完璧を圖ることに重點を置き緊急を要するものに付、之れが應急措置として不敢四十萬圓餘の應急費を以て、夫々處置を講し、更に災害の激甚地たる伊豆西海岸土肥町西豆村、戸田村の區域を所管する臨時土木出張所を急設すると共に、各土木出張所管内の災害狀況を斟酌し所員の増減を計り且つ本廳員を急派し指導督勵に當らしむる等全幅的努力を傾注し、應急復舊工事の進捗に懸命なる活動を續けて居る。

今次の水害に際し、然も其の災害の眞最中である七月一日土木局、計劃局より數名の權威ある専門技術官を派遣され其の慘禍の實狀を隈なく踏査され、更に七月中旬本省參與官、技監、技術課長等一行實地視察あり、序て緊急措置を要する應急的施設に付之れが査定の一爲八月一日査定官の來縣を見、折柄再度來襲の水禍の裡に全縣下に及び踏査を行はる等、時宜に即せる迅速果敢なる對策に深甚なる敬意を表するものである。

三、水害と地方集團動行

本縣に於ける道路愛護團體は目下團體結成方態漸中なる

も市町村數三百十一に對し百九十七町村に及び、現に昭和十二年度に於ける事業の實績に徴するに、道路愛護作業を實施せる團體數百五ヶ團體にして、其の參加人員拾五萬九千八百二十五人に達し相當なる成績を舉げてゐるが、今次の水禍には本團體の使命として別項記事の通災害中は勿論、消防組、青年團、在郷軍人分會等の團體と協力水防の爲に挺身的活動を敢行し、更に減水、天候の回復を期して假橋の架設、決潰の復舊、側溝、暗渠の浚渫、崩土取除、路面の修理、障碍物の除却作業等一齊的に斷行する等團體的訓練の下に極めて統制ある作業に終始し、其の實績眞に見るべきものあり當局を感激せしめ、而して團體員自らも斯の實際の眞隨に觸れて團體としての使命の重大さを感得し、今後一段と勤勞報國の精神を發揮し社會公共の爲精進すと意氣潑刺たるものあり大に將來を矚目される次第である、殊に今夏全國一齊的に斷行された中等學校の集團勤行は本縣に在りても五十の中等學校生徒の延人員十二萬餘人を動員勤勞奉仕運動を開始し、其結果は意外の好成績を收

め、更に銃後縣民からも多大の好評を受けたのに鑑み、縣關係部に在りては引續き第二次勤行運動を行ふことに決定してゐる。此の第二次勤行運動に當りては水害地に於ける復興に重點を置き男女中等學生を動員し銃後の國策に協力せしめることとなり、單に中等學校のみならず小學校に於ても上級兒童に心身に適應する勞作を講じ、縣下全小學校の高等科生徒六萬人五、六年兒童十萬人計十六萬人の高等兒童は各校毎に暑中休暇の期間を利用し四日乃至五日間宛出勤し、道路の修理、運動場擴張、農園開墾、出征家庭の見舞に精勵し居る等力強い銃後學生の潑刺たる意氣を示し實に頼母しき限りである。

水禍の中心地である田方郡一圓の小學校に在りては教職員の總動員を行ひ打つて一丸となつて男女教員七百三十名八月十二、三日の二日間亦同郡下二十一ヶ町村の各青年團八百七十六名は前後八日間に及び最も災害の激甚を極めた府縣道土肥——大仁線土肥町地内船原峠より土肥町寄りの坂路に堆積せる崩土の取除、側溝の浚渫作業、缺所の應急

修理作業に灼くか如き炎熱下に勤勞奉仕の精進の鍬を大地に下し理論と實踐の尊い體驗をしたなど銃後に於ける教育者としての範を道路に於て教育する等所謂道路教育を遺憾なく發揮し勤行せられたる事例ある外、尙隣接賀茂郡に於ても郡下青年團の總動員を行ひ勤勞奉仕隊を編成し郡下水害の激甚地の復興に勤勞奉仕を以てする等、縣下到る所に集團體的勤行を強調され隨所に小集團的勤行により災害地の復舊は著々行れつゝあるが、何れの團體に在りても、其の勤行狀況に徴し「水禍による時局」と謂ふ銃後に於ける清楚なる國民性を發揮し、水禍による復興は刻下緊切なる時務なりとし極めて眞摯なる奉公の精神を以て熱汗報國を續けられてゐるので感激と共に復興の日も遠きにあらずと期待してゐる。

惟ふに今次の水害に於て道路愛護團體として活躍されたことは著敷いものであるが、團體結成後最初の體驗にして強硬なる試練となつた譯で與つて地方水防組、消防組の協力寄與による所甚大なるものと信するのである。然れと斯る

非常災害時に際り從來の如き強化徹底せる水防機關の乏しさを痛感せるものにして、今や全國的に高潮に達しつゝある道路愛護の普及と共にこれに呼應し水防を主眼とせる機關の設置若は目下各地に澎湃として起つた河川愛護を以て團體を構成し治山、治水、事業の促進、河川維持管理の充實、水防の強化等河川愛護の普及徹底を期し夫々其の完璧の實現化を望むのである。

四、道路愛護團體の作業狀況（拔萃）

岩科村 六月二十九日の出水に際し各河川の氾濫に岩科川の堤防縣道下田松崎線の道路、橋梁危機に瀕したる爲團員出動し他の諸團體と協力水防を開始し各所に粗菜、土俵堰、振投等防水に必死の防禦工作を行ひ堤防缺潰二ヶ所、其他小破損十數ヶ所程度に止め之を未然に防止し、更に府縣道筋に於て各所に山腹の崩壞を生し道路の埋没夥しく交通杜絶の状態に團員急派し之か取除を行ふ等一般災害の應急工事等は極めて統制ある訓練の下に活動し非常災害時に於ける措置として遺憾なきを期した。

中川村(賀茂) 連日の豪雨に那賀川増水し村内道路は到る處損傷甚敷状態に團體部員に警戒を指令し防水に當らしめしが遂に府縣道松崎大仁線は本村那賀部落より明伏に至る區域に於て道路の缺潰、橋梁の流失等數ヶ所に及び全く交通の杜絶の状態に立ち至りたるを以て天候の回復を待ち八月三日團員を動員石積、盛土、假橋架設等應急工作を施し更に八月十九日全路線に互り路面の修理、側溝浚渫等の作業に努め兩日に及び参加人員五百人に達する等勤勞報國の全きを期せり。

對島村 連日の豪雨は遂に鳴川の氾濫する所となり同村池部落は洪水の巷と化し三十餘町歩に及ぶ稻田及桑園は數尺の水底に没し旬日に及び其の間本園池支部員は日夜兼行同川筋堤防の防禦警戒に當り將に數度に互り缺潰の危機に迫りたるも必死の活動に未然に防止せり現に鳴川は耕地の中央部を南北幅十二尺深三尺通は全く砂礫を以て埋没し其慘禍は坐るに戰慄せしむるものありと。

原里村 岳麓の豪雨は亦格別、忽ち久保川の氾濫となり猛

烈なる水勢に中村橋を流失し次で久保川橋を半ば落橋せしめ更に小屋澤橋は完全に冠水し名狀すべからざる慘禍に團員等晝夜兼行必死の水防を開始し特に小屋澤橋の防禦による障礙物除却作業には勇敢にも濁流に躍り込み挺身的行動を敢てするものある等凄慘なる活動を以て未然に之を繋留し更に中村橋地點に應急對策として假橋を架設する等團員一致團結自覺しき活躍を持續し一般村民を感激せしめたり。

金岡村 今次の水禍に道路橋梁の流失埋没缺滑、農耕地の冠水、住家の浸水等其慘狀言辭に盡し難く隣接沼津は洪水の巷と化し國道筋木瀬川橋の流失に幹線東海道は全く交通杜絶の爲村内を通ずる府縣道吉永三島線は自然交通頻繁なるも山麓道路は各所に洗堀又は崩落等あり車馬の交通危険なるも一般村民は住家耕地の防排工作に狂奔し全く慘憺たる状態に同村小學校長は此慘狀看過するに忍びざるを痛感し教職員に指令し、恰も日支事變一週年記念日をトし上級兒童百九名を動員男職員指揮の下に式典

終了後縣道延長四杆に及び應急修理を斷行し正午の默禱は泥まみれの儘現場に於て行ふ等涙ぐましき動行に意義ある作業に終始し一般交通の利便に寄與する所ある等村當局を感激せしめた。

大平村 今次の豪雨は狩野川筋の大氾濫に村内用排水門の門扉を破壊し逆流横溢し附近一帯洪水の巷と化し所有公共工作物の危機、農耕作の冠水、住家の浸水等慘憺たる状態に同團體員一百名は他の團體と協力六月二十九日より七月四日に及ぶ七日間各部員交代を以て晝夜兼行警備に當り更に青年團は七月八、九兩日堤防破壊ヶ所應急修理を續行せるも大工作の爲終了に到らざる爲翌十日本團員約七十名出動應援する等各自農耕地の荒廢を顧みず犠牲的公共奉仕に勤行せり。

今泉村 六月二十九日の豪雨に際し同團は村内の被害狀況視察班を編成巡視の結果和田川、沼川筋及府縣道、町村道全線に互る危険ヶ所に團員七百五十五名を動員夫々各部班を現場に急派し堤防道路橋梁の警戒と防禦に徹宵從

事せしめ更に翌三十日續く降雨に災害對策を講ずる爲緊急役員會を開催特に水禍の甚大なる箇所に各班員の出動を指令し應急工作を施し、尙七月三日再來の出水に一層嚴重なる水防を要するを以て團員五百七十三名を動員前回の編成により警備に當らしめたる等會長及役員の指導督勵に一絲亂れず眞劍味を以て終始せり。

興津町 六月二十九日の豪雨に各小河川の氾濫に興津川増水し堤防道路橋梁用水路等危険ヶ所に消防組と協力し極めて統制ある警戒と防禦に必死的の活動を行ひ、亦清水市上水道淨水地山の一部俄然崩壊し道路、水路を埋没し附近民家の浸水に防水作業を行ひ更に七月三日同町由比町間の山腹崩壊し、省線路及國道を埋没し、交通杜絶の警報に團員五百有餘名現場に急派し線路工夫と協力徹宵豪雨を浴びつつ除却作業に當り、十一時間餘に及ぶ献身的活動に漸く自動車の運行を開始し、更に時餘にして省線は單線運轉を行ふに到りたる犠牲的行爲は當局をして感激せした。

岡部町 六月二十九日より三十日に至る降雨は、同町地内各谷川の増水に岡部川、朝比奈川氾濫し可惜道路、堤塘、護岸等忽ち破潰し、尙も危険の状態に團員の非常招集を斷行し各現場に急派し水防作業を開始し應急的に臨機の工作を施し、溢流せる水勢を必死の動作に克く防禦する等水防訓練の試練となり團體的精神を鞏固ならしむるのありと町當局を感激せしめた。

瀬戸谷村 不連續線降雨は遂に七月三日に至り豪雨と化し各小河川は一時に増水し、瀬戸谷川の氾濫夥しく沿岸道路の危機に愛護團員出場と共に自發的に村民も參加し、必死の防禦に努めたるも制止すること能はず、本村消防組の應援に大々的水防を開始し僅か假道の一部と堤防の一部缺壞に止め更に七月四日再び消防組と協力防禦に努むると共に假道を架設し、自動車の運行に便ならしめる等尙村内馬洗淵附近の路面の埋没に二日間互り崩土取除作業を行つた。

土方村 連日の豪雨に村内下小笠川急激に氾濫し一時に堤

防十數所缺潰の爲農耕地の流失及冠水、住家の浸水等到る處危険に切迫せるを以て急據愛護團員四百名現場に出動不眠不休の活動に防禦工事に當る外、縣道筋の缺壞に全力を注ぎ直ちに應急工事を施行し通行に支障なからしむる等尙村内全路線に及び七月七日日支事變一週年記念日をトし一齊の修理事業を行ふ等意義ある勞仕報國である。

原泉村 稀雨の豪雨に各谷澤増水し忽ち原野谷本川氾濫し府縣道東川根掛川線堤塘兼道路は猛烈なる水勢に溢流し危険に迫りたるを以て居尻區本團第五部員五十名出動、左右岸約二百五十米の區域に振投粗朶伏等所有防水工作に必死の活動を續け大破を免れ尙府縣道大和田森線大和田地内に架設せる三橋梁は何れも流材及上流部崩壞地の立木其他の漂流物擊突又は停着し、流失は必然免れざる状態に陥りたるを以て第一部員五十五名出動身の危険を顧みず障礙物除却作業を敢行之れを小破程度に防止し更に黒俣第六部班は部内二橋梁の危機に嚴重警戒中募る

水勢に特に落橋せんとする際、勇敢にも數名は決死の覺悟も堅く身に腰繩を結び挺身的作業に必死の活動を以てし防禦に當り可惜一橋は人力及ばず遂に一經間流出の慘を見るに至りたるも、團體員の共同團結せる犠牲的勤行に大禍を免れたりと謂ふべく而して各部班は減水後夫々村内全路線に及び應急修理を斷行せり。

森 町 連日に互る降雨に太田川増水し、堤防の欠壞八ヶ所道路の缺潰及埋没二ヶ所橋梁の流失五ヶ所に及ぶ慘たる狀況に全員出勤各危険ヶ所に振投、土俵堰を築造し、又流失せんとする橋梁の繫留に必死の努力を盡し未然に防止する等更に減水後二日間の出勤により應急及修理作業を續行し防水材料鐵線六十貫空俵杭木三百本参加人員千八百人の多數に及べり。

浦川町 連日の降雨に同町を中心に隣縣新城、飯田、本郷方面に通ずる各府縣道筋の溪流増水と共に路面を洗ひ缺所を生じ、或は山腹部の崩落夥しく道路の埋没せるヶ所頻々あり交通上危険なるを以て七月三日各部愛護會員を

動員夫々警戒に當らしむると共に排水及崩土取除、小破修理作業を行ひ殊に改築直後の二俣、飯田線を作業區域とする吉澤支部員の勤行は顯著なるものであつた。

氣賀町 六月二十九日、七月三日の兩日に互る豪雨に同町内各河川増水したるを以て災害對策として防備班十班を編成各部警戒巡視に當り道路、堤防等危険ヶ所に土俵を伏設し或は障礙物の除却作業を行ふ等殊に井伊谷川、小野川兩川の大増水に堤防危機に瀕したるを以て隣接部班と協力必死の防禦を續行し一時絶望の狀態となりしも一致團結せる挺身的努力の甲斐あり之を完全に防止せり。